

鯨漁場建築～旧花田家番屋～

北海道 / 小平町



明治から大正にかけて北海道西海岸の鯨漁は全盛を極めており、特に鬼鹿の海岸は千石場所とも言われ、群飛ぶカモメと、波間を渡るヤン衆の沖揚音頭、もっこ背負いの人の波で浜は湧きかえっていた。

この建物を建てた花田伝作氏は、明治後期当地の素封家で最盛期には18ヶ統の鯨定置網を経営する道内屈指の鯨漁家であった。この番屋はその本拠として、5ヶ統の漁夫の外船大工、鍛冶職、屋根職等総勢200人前後の人を収容していた。

当番屋は道内に現存するものでは最大規模を有し、木割りは大きく豪壮であり、空間は雄大で、漁夫の寝台（ねだい）を中二階に備えて三段とし、多人数の漁夫を収容するための機能と合理性を求め、俗に番屋と呼ぶ鯨漁家特有の平面構成となっている。

重要文化財の指定とともに小平町がこれを買収し、3年の年月と約1億9千万円の費用を投じて解体修復したもので、古民家建築物鯨番屋の代表的遺構である。

昭和46年（1971）に国の重要文化財に指定。

TOPICS

- ・鯨番屋まつり 毎年5月最終日曜日 開催
- ・特産品：ホタテ、うに、小平牛、メロン、水産加工品

お問い合わせ先

旧花田家番屋管理事務所

TEL / TEL / 0164-57-1411

【交通】

車 / 札幌から国道231号、232号経由 2時間50分

バス / JR留萌駅から40分

